

特別講習で参考となる警備業務の事故事例・失敗事例・適切な事例について
「夜間残留車両確認（巡回）時の不適切対応」

1、事例

A 商業施設にて、駐車場内にて車内自殺者（硫化水素による自殺）が発生し、その対応が重大事故に繋がり兼ねなかったという事例。

- 14：20 B 警備員が従業員駐車場内にて巡回中（従業員不正駐車チェック）対象車両発見。
エンジンがかかっているのを確認するが、そのような車は頻繁にある為に、どこにも報告はしなかった。
駐車許可証が無い事も確認したが、すぐに出て行くものと考えた。
車内は、衣類、食品残等散乱し車中泊常習者の様子。
- 18：18 C 警備員が駐車場巡回中、対象車両を発見する（初見対応）。
エンジンがかかり、中で人が寝ているのを確認する。ロックをするが起きない。
中をライトで照らすが、特に異常は感じられず。警備責任者へ報告。
- 18：25 警備責任者が車両を確認。
ロックをするが反応無し。中をライトで照らし、かすかに胸が上下しているのを確認。
警備責任者は異常なしと判断し、客先に報告せず。
- 19：40 B 警備員が巡回中、対象車両を再度確認する。ロックをするが反応無し。
- 21：15 C 警備員が巡回中、対象車両を再度確認する。ロックをするが反応無し。
警備責任者へ報告。
警備責任者は、閉店まで時間があつたため、客先に報告せず。
- 23：55 D 警備員が巡回中、対象車両を再度確認し、声を掛けるが、反応無し。ドアが施錠されていた為、ドアを開けるが、この時既に息をしておらず。110番通報する。

2、処置・対応

110番通報、警察・救急対応

3、まとめ

駐車場内では自殺者が発生する確率が高い。
車両確認時には、自殺等事件性があることを踏まえて対応する必要がある。
今回の場合は、硫化水素を使用した自殺であり、一歩間違えれば警備員自身への二次災害が考えられ、対応時には複数対応等慎重な対応や、警察・消防等の公的機関に対応を委ねることも必要。
また、車内は衣類、食品残等散乱し車中泊常習者の様子であったことから、早期の通報が必要。
さらに、警備隊内での報告連絡相談が不十分であり、都度巡回者が初見対応を行ったことも問題。
如何なる小さな異常でも隊員が警備責任者へ、そして客先への報告を行い、警備隊全体で異常の早期発見に努めることが必要。